

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用①」

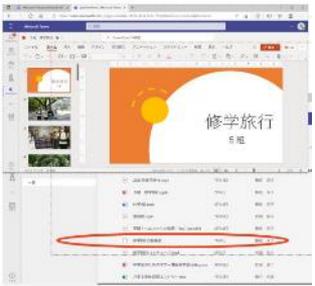
- クラウドを活用した一人一人の子どもが意見を出しやすい授業実践にチャレンジ、成果のあった取組と今後の課題について教職員間で共有する際にもクラウドを最大限活用した。
- 1学期は「共有」、2学期は「個別最適化」、3学期は「個別最適化」と「共有」をキーワードにした授業を実践し、教科を超えて交流することで、全教職員の授業力の向上を図った。

（教職員間で共有した取組実践） ※一部抜粋

教科・学年	取組の様子	取組の内容 (どのような場面でICTを活用し成果があったか)	課題
美術 (3年)		<p>【取組】 印象派の絵画について、生徒が調べたこと、感じたことをクラウド上の共有ノートに書き込んでいった。</p> <p>【成果】 各自が調べた様々な情報や感じ方を共有できた。さらに、それを踏まえて、より踏み込んだ情報や感じ方を書き込んでいく生徒もいた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の意見ばかりに興味を持ち、自分の学習に向かない生徒もいた。 評価にどうやってつなげていくか難しいと感じた。
保健体育科 (1・3年)		<p>【取組】 ①器械運動の始めに、各自の目標（難しい技に取り組みたい、基本の技が上手になりたい等）に関する生徒アンケートを実施した。 ②器械運動の授業中に撮影を行い、クラウド上で共有した。</p> <p>【成果】 ①生徒も集約結果を確認でき、狙いをもって器械運動に取り組む意識付けにつながった。 ②生徒が好きなきときに自分の動きを確認したり、他者の動きを振り返ることができた。また、評価の際に指導者も見返すことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 撮影に時間がかかり、実技の時間確保が短くなってしまった。 端末の不調や、家に忘れてきた生徒の対応が必要となった。
理科 (1年)		<p>【取組】 ①生物の分類の授業で、フィールドワークを行った後、身の回りの生物をどのような観点で分類できるかを班で話し合い、クラウド上の共有ノートで分類シートを作成した。 ②アサリの解剖を行う際、写真や気づいたことをレポートにまとめクラウド上で共有した。</p> <p>【成果】 ①②ともに、クラウド上で共有することで、互いの考えを交流したり、あとから振り返りを行う際に有用だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの操作に慣れるまでは支援が必要で時間がかかった。授業の中でスムーズに使えるように指導していきたい。

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用②」

（教職員間で共有した取組実践） ※一部抜粋

教科・学年	取組の様子	取組の内容 (どのような場面でICTを活用し成果があったか)	課題
<p>国語科 (3年)</p>	 <p>【課題】 文字のバランスや大きさに意識が足りませんでした。また、書き取れぬ点も三つを指摘されました。 一文字は文字のバランスや半紙の使い方が下手だったので気を付けました。</p> <p>【成果】 課題を思い出して書き直し、よりきれいな一文字に書いた。横の線の幅を揃えることで、自分の練習がわかりやすくなり、学習することができました。 また、書き取れぬ点や半紙の使い方に注意することや半紙を切ることも、両方の作業を思い出していました。</p>	<p>【取組】 書写の時間、一枚目と最後の一枚の写真を撮ることで自分の作品を客観的に評価できるようにした。</p> <p>【成果】 自分の作品を客観的に把握・比較することで、くせや授業内での自分の変化を見取りやすくなった。また、次時の活動や事後の振り返りにも活かすことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回は個人で完結する取組となったが、今後はクラス全体で共有し、より客観的なアドバイスを互いにし合う学習につなげたい。
<p>数学科 (2年)</p>		<p>【取組】 生徒が撮影したプリント課題をクラウド上で共有し、いくつかの紹介した。周りの人と交流し自分の考えとの比較を行った。</p> <p>【成果】 いくつかの考えを紹介することで、問題を考える思考の幅が広がり、意欲的に課題に取り組むことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の意見交流をさらに促すためのアンケート活用にも努めていきたい。
<p>総合的な学習の時間 (3年)</p>		<p>【取組】 修学旅行に関する調べ学習の時間に、どこを見学したいか、お土産は何を買いたいかを各自で調べ、その結果をクラウド上で共有した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの好みが違うことがすぐに分かり、時間に制限があることなどを考えると、全員の要求を満たすことは無理なことが分かった。 その後、各自が自分の行きたい所をアピールするために端末を使って発表する活動につなげることができた。また、協働的な学びの中で決定したルートだったので、当日も全員納得の上で行動することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表する活動の際、指導者が未熟で上手く編集出来なかった。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用③」

（教職員間で共有した取組実践） ※一部抜粋

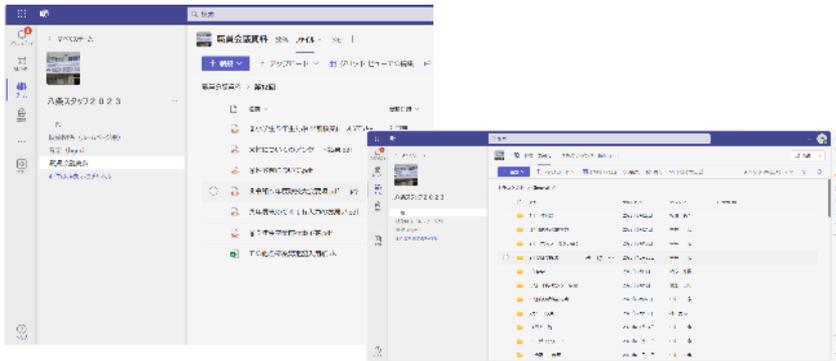
教科・学年	取組の様子	取組の内容 （どのような場面でICTを活用し成果があったか）	課題
<p>理科科 （2年）</p>		<p>【取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①顕微鏡のパフォーマンステストで活用。顕微鏡の使い方の手順を撮影し、提出 ②池の中の微生物図鑑を作成。クラスのteamsを活用し、PowerPointで共同編集を行った。 <p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生徒自身が自分で手順を確認しながら進められるので、技術の定着に成果があった。 ②同時に行えることで一人一人が意欲をもって取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個別最適な学びから、生徒の話し合いに繋げていけるような工夫が必要。
<p>社会科 （1・3年）</p>		<p>【取組】</p> <p>ピラミッド型の思考ツールを使い、自分の考えをまとめ、全体で共有した。</p> <p>【成果】</p> <p>その場に適した思考ツールを使うことで、どの生徒も主体的に考えを整理でき、自分事としてまとめられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 課題の精選が必要になる。どこまで生徒にゆだねるのかを生徒の現状に合わせて考えていく必要がある。
<p>総合的な学習の時間・ 特別の教科 道徳 （3年）</p>		<p>【取組】</p> <p>総合：teamsを使って、ファイルを共有し、修学旅行のまとめ学習・発表（PowerPoint）の作成</p> <p>道徳：学年道徳の実施。クラウド上で生徒たちの意見を交流。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> • PowerPointで共有することで、作業効率が上がった。 • 意見の共有を通して、自分と友達の意見の相違点が見つけやすくなり、活発な交流が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学年全員でファイルを共有するので、誤作動で消えたり、移動したりすることがあり、生徒がなれるまでに時間がかかった

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

職員会議でのクラウド活用



職員会議資料をteamsに提出することとし、教職員全体で共有した。また、クラウド上で共有した資料は共同で追加や編集を行った。

【成果】

- 資料のペーパーレス化により印刷や配布にかかる時間を削減でき、働き方改革につながった。
- 職員会議に出席できなかった教職員も最新情報をいつでも確認できるようになった。

大型モニターの活用



職員室内に大型モニターを用意し、保護者連絡ツールに届いた欠席・遅刻連絡を映し出し、担任等の教員が一目で把握しやすくした。また、校舎内の生徒がよく通る場所にもモニターを設置し、行事予定や誕生日の生徒の紹介、過去の行事の様子等を配信した。

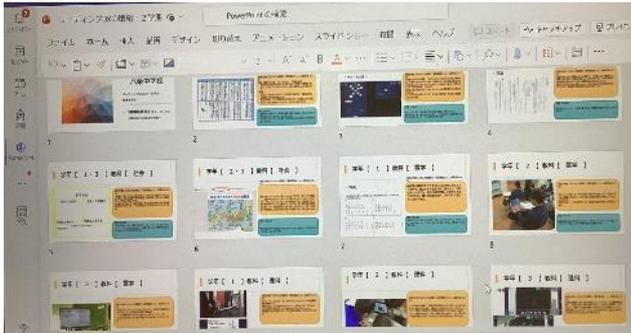
【成果】

- 教職員全体の連絡漏れが減り、情報共有がスムーズになった。
- 生徒がモニターの周りに集まって連絡事項を確認したり、投影された映像をきっかけにコミュニケーションを取り合う姿が増えた。

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

教員研修でのクラウド活用

(実践事例の共有の様子)



(協議での活用の様子)



□ 実践事例の共有

学期ごとに各教科の一人一台端末の活用実践をクラウドで共有。教科横断的に学校全体で実践を交流できた。

□ 協議での活用

教員研修時の研究協議をクラウドサービス上で行うことで、他グループの意見をリアルタイムで確認できた。

□ 研究報告会の申込

研究報告会の申込をFormsで受け付けることで、参加者の集約が簡略化できた。

□ 研究授業配信

YouTubeで研究授業を配信することで、対面で参加することができない教職員や保護者も参加することができた。

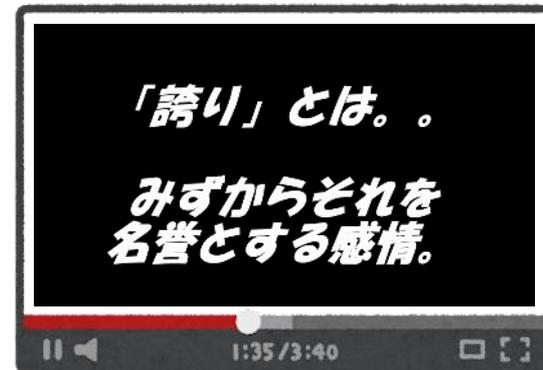
□ 管外視察のライブ配信

出張者がカメラを持参し視察の様子をオンライン配信することで、参加できなかった教職員も先進校の取組紹介等を直接聞くことができた。

【取組内容①⑤】「学校CM動画の制作を通じた対話的・協働的な学び、ICTを活用した取組の対外発信」

学校CM動画「HaTube（ハッチューブ）」

生徒が自ら考え台本を作り、キャストを演じ、撮影し編集する学校CM



【取組内容①⑤】「学校CM動画の制作を通じた対話的・協働的な学び、ICTを活用した取組の対外発信」

学校CM動画「HaTube（ハッチューブ）」の制作

- ・日常で感じたことがらや日頃のがんばりなどを、生徒が自ら考え台本を作り、キャストを演じ、撮影し編集。（例：行事、クラス紹介、規範意識について等）
- ・クラスや生徒会が輪番制で動画を制作



輪番で動画を制作

生徒や保護者、学校を訪問した全ての人に見てもらおう取組

- ・制作した「HaTube」を校内の大型モニターを活用して放映する。
- ・懇談会や入学式、卒業式には特別制作した「HaTube」を放映。



生徒自身が台本を考え、撮影・編集することで協働的な学びにつながる

成果

- ・HaTubeの制作を通して、生徒の対話的・協働的な学びにつながる。
- ・生徒の創造的思考力の向上。
- ・生徒のICT活用技術の向上（撮影・編集）。
- ・保護者や学校訪問者も楽しみに見ていただける。
⇒生徒のICT活用に対する関心がup。



HaTubeを通して生徒の対話が増加

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立八条中学校（京都府）

【取組内容⑤】 研究成果の積極的な全市発信

- 市内全ての小・中学校の**GIGAスクール推進主任を対象にオンデマンド型の動画配信研修を実施**。
本校を含むLDX指定校（京都市：小2校、中1校）が取り組んでいる研究成果を全市発信した。
- 併せて、LDX事業の開始時に指定校3校合同で実施したキックオフ研修会の内容についても、講演者の許諾をいただいたうえで全市公開し、他校における次年度のICT活用に向けた意識付けに活用いただけるようにした。

学習面・校務面などあらゆる場面での一人一台端末の活用

端末の文房具化が進み、子どもが主語となっている学びの姿をたくさんの写真を使って紹介。

③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

6年 総合的な学習の時間

個別に最適な学び方を選択する姿

2、3人で

個人で

グループで

授業の司会に児童が担当

モニターの活用

活動

地域や家庭と協力し合って行うデジタルシティズンシップ教育

積極的な端末活用とともに故障やトラブルの可能性も増加。LDX事業の指定を受け、特にデジタルシティズンシップ教育に重点的に取り組むこととなった経過を説明。

取組の経過について

タブレット端末を使用する回数が増え児童らは使うことに慣れてくる。

タブレット端末の故障やトラブルが生じる可能性も

アンケート結果より

研究開始時に児童アンケートによる客観的な実態把握を行ったことこの紹介。

①家庭でのルールは守っている子が多い
②自由なゲーム(娯楽)で使っている子が多い
③学習で使っている子は少ない

①タブレット端末(情報機器)の使い方・意識が低い
②タブレット端末が学習に使える意識が低い

①のように、オンラインゲームと付き合えばよいのか？



②教員研修の充実

「自ら学ぶ」教員研修

授業力アップ研修

ロイロ共有ノートでの交流

学びたいことも自分で選んで動画視聴

教員研修も「自ら学ぶ」。個別の動画視聴やクラウド上での意見交流など、ICT活用を通じた教員研修の充実についても紹介。

保健体育の実践例「個別最適化」

ダンス実技テスト

理科の実践例「個別最適化」

英語の実践例「個別最適化」

YouRealize

テーマは「今までの自分を超越る」。
ICTを活用した授業計画(PLAN)→授業実践(Do)→生徒アンケートや公開授業・研究授業での評価・改善(Check)→次の授業に向けた課題提示(Action)のサイクルによる全教職員のスキルアップの実践を紹介

外部講師によるご講演もアーカイブ配信で取組を波及！

R5.5月にLDX指定校の3校合同キックオフ研修会を実施。研究の開始にあたり多くの示唆をいただきました。ご講演内容については、許諾をいただいたうえでアーカイブ配信を実施し、指定校以外にも積極的に取組を波及させています。

岐阜聖徳大学 教授 玉置崇 先生
「学校を元気にするGIGAスクール構想であるために」

- (ご講演の主な内容)
- ◆GIGAスクール構想を理解する
 - ・なぜ一人一台端末なのか
 - ・なぜ高速ネット回線なのか
 - ・なぜクラウドなのか
 - ◆授業における一人一台端末の活用例
 - ・働き方改革
 - ・個別最適な学び
 - ・つながることの容易さと拡大
 - ・学習の自己調整、振り返りの大切さ
 - ◆情報モラル教育の次の段階を知る

京都市教職員以外もご覧いただけます

右図もしくは [こちらをクリック](#)



教科の枠を超え、全ての教員がICT活用の実践を交流し、授業改善につなげる